



Title	母子保健における子ども虐待予防の視点からの支援
Author(s)	鳴戸, 起代子
Citation	大阪公衆衛生. 2011, 82, p. 5-7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83375
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

母子保健における子ども虐待予防の視点からの支援

堺市子ども青少年局子ども育成課

鳴戸 起代子

<はじめに>

堺市は、堺、中、東、西、南、北、美原の7区あり、母子保健事業は、主に各区の保健センター（堺区のみ2保健センター）において実施しており、母子健康手帳の交付時、乳幼児健康診査（4か月児、1歳6か月児、3歳児）時等、すべての妊婦、乳幼児家庭に対応する機会があることから、子ども虐待予防の視点を持って以下の事業を行っています。

<妊娠期の支援>

◇母子健康手帳交付時の妊婦面接

母子健康手帳の交付時に保健師が面接し、妊娠・出産に関する相談を行っています。

育児総合ガイドブック「いきいき堺っ子」

（図1）による妊娠中や出産後の子育て支援に関する情報と相談場所（保健センターや地域子育て支援センターなど）について説明しています。

また、面接時アンケートを実施し、支援の必要な家庭を把握し、妊娠中からのきめ細かい支援を保健師が行っています。平成21年度の支援の必要な家庭は、妊娠届出8,240件中864件ありました。しかし、妊娠がわかった後、母子健康手帳の交付を受けずに望まない妊娠で悩んでいる方や妊婦健診の未受診者の把握は困難であり、医療機関との連携が重要と考えています。



図1 いきいき堺っ子

<乳児期の支援>

◇乳児家庭全戸訪問事業

堺市においては、助産師、保健師、こんにちは赤ちゃん訪問員の3職種が訪問しています。訪問結果により、継続して見守りの必要な家庭には、各区の地域子育て支援センター（南区は子育て支援室）や保健センターが関係機関と連携して、訪問や適切な子育て支援サービスを開始しています。

◇乳幼児健康診査

これまでの健診は、子どもの疾病や障害などを発見することが主な目的でしたが、養育上の問題、親子の関係や育児不安など心の状態を把握することで、要支援家庭への支援が可能となることから、乳幼児健康診査をハイリスク家庭の発見と支援のスタートとしてとらえて実施しています。そのため「話ができた」「話を聞いてもらえた」という安心の場を提供することにより保護者がSOSを出せるような関係づくりを目的に健診を行っています。

各健診の終了後は、従事者によるカンファレンスを行い、情報の共有を行うとともに継続支援の必要な家庭に対しての支援方法などを確認しています。

未受診者には、受診を勧奨し、受診されない場合には子どもの状況を把握するために訪問等を行っています。何度もアプローチしても状況が把握できない家庭もあることから、子どもの健康・発育状態を確認するためにも未受診家庭への確実な対応が課題となっています。

◇医療機関からの要養育支援者の連絡

医療機関からの連絡により未熟児や疾病のある児など退院後の支援が必要な家庭に

は、保健師が訪問をし、乳児と産婦の健康状態を把握するとともに、心配ごとや悩みを聞き、育児の仕方を指導するなど早期からの支援を行っています。

最近では、ハイリスク妊婦など妊娠中からの情報提供が増えており、妊婦面接からの継続支援と併せて妊娠中からの訪問等を行っています。

「子育てアドバイザー」、家事、育児などの援助を行う「育児支援ヘルパー」の派遣を行うなどの支援を行っています。(図2 子どもを虐待から守るための支援 (3) マニュアル (堺市) より)

通告後については、ケース調整会議で情報共有を行い、支援の内容等を確認して各機関が相互に役割を担い支援を行っています。(図3 子どもを虐待から守るための支援 (堺市) より)

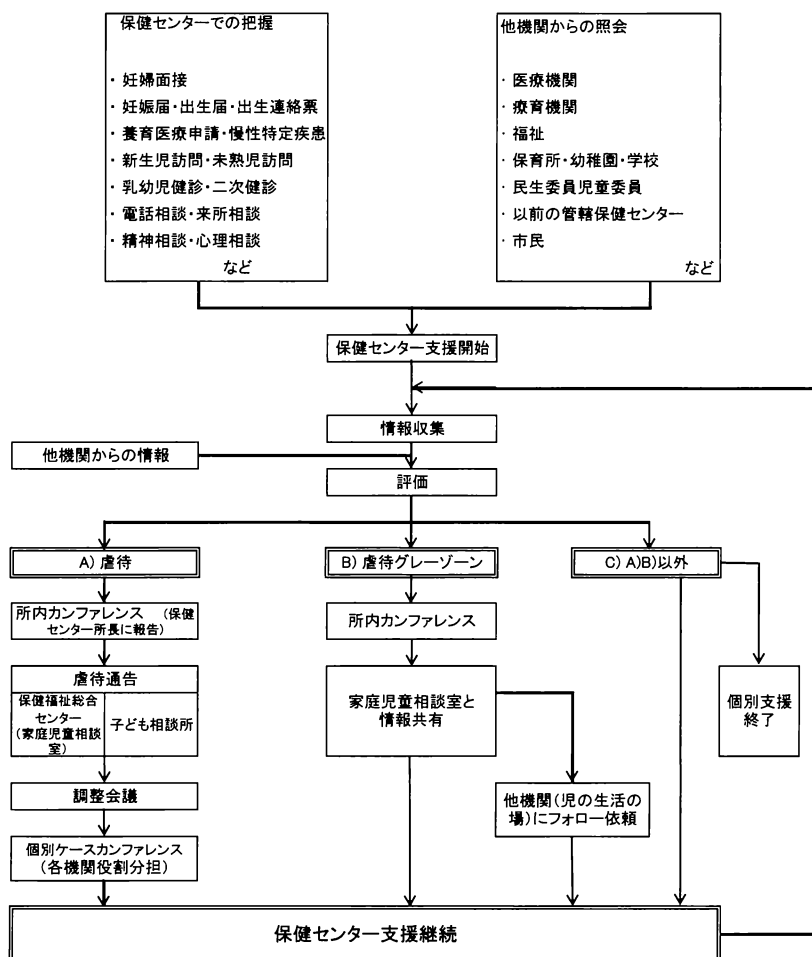
＜ハイリスク家庭への支援と連携＞

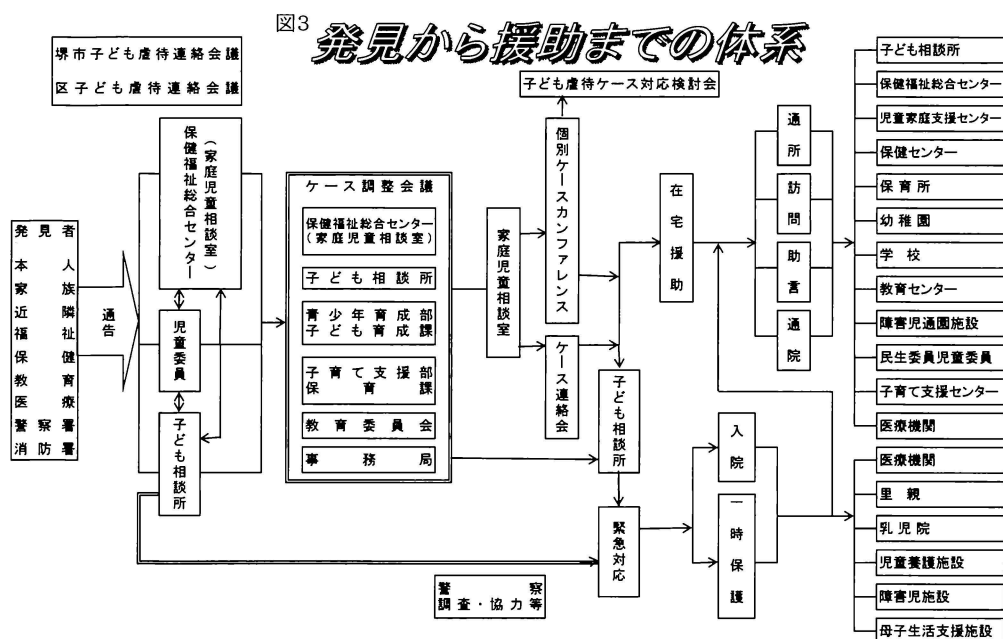
各母子保健事業からハイリスク家庭を把握した場合、保健センターでカンファレンスを行い、虐待が疑われるときには保健福祉総合センター(家庭児童相談室)へ通告し、虐待への移行が危惧される場合には、家庭児童相談室と連携、情報共有し、母親のレスパイトをはじめ、育児の仕方などについて助言アドバイスを行う

＜おわりに＞

子どもが生まれる前の妊娠期からきめ細かく対応していくことにより、子育ての不安を軽減し、安心して出産を迎え、前向きに子育てができるように支援を行っていくことが母子保健活動における子ども虐待予防対策の重要な役割と考えています。

図2 ハイリスク家庭への支援:フローチャート





脂肪を消費しやすくする

許可表示：本品は茶カテキンを豊富に含んでおり、エネルギーとして脂肪を消費しやすくするので、体脂肪が気になる方に適しています。

茶カテキン
540mg



ヘルシア 緑茶
まろやか

ヘルシア 緑茶

ヘルシア
ウォーター

ヘルシア
スパークリング

・健康づくりは適度な運動と食生活の改善から。・ダイエット食品ではありません。・飲んだあとはリサイクル。

■ 商品に関するお問い合わせは ☎ 0120-165-697 <http://www.kao.co.jp/healthia/>



年に1回は人間ドックを受けましょう。

日本人間ドック健診協会
推薦®

